

医療と介護を合築した施設で新たな展開

国家公務員共済組合連合会 九段坂病院



東京都千代田区 国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 院長

中井 修 先生

2019年で創立93年を迎える九段坂病院は、2015年に東京・千代田区の北の丸公園に面した場所に移転して新たなスタートを切りました。同じ医療圏に高度急性期病院がひしめき合う環境にありながら、200床クラスの同院には全国からたくさんの患者さんが集まってきました。大都会で小規模病院が生き残る秘策について、院長の中井修先生にお話を伺いました。

専門分野に特化することで存在価値を高める

関東大震災から3年後の1926年、九段坂病院は初代院長を含めた数名の有志により30床の私立病院として千代田区の千鳥ヶ淵沿いに開設されました。有名な建築家が設計したモダンな造りが評判を呼び、都心の憧れの病院として多くの方が来院したそうです。1949年に国家公務員共済組合連合会の直営病院となった後も、国家公務員に限らず地域に開かれた病院として運営され、1961年には新館完成により病床数226床、診療科目11科まで規模を拡大して総合病院の承認を受けました。「昭和の終わり頃までは産科や小児科もあり、有名女優が出産で入院されたこともありました」と中井先生は話します。

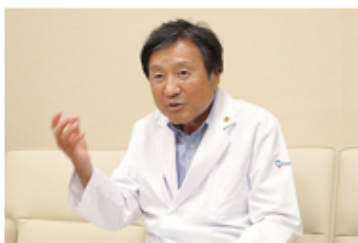
ところが、バブル崩壊後は地域住民が減少し、産科や小児科は閉鎖されました。大病院が林立する都心で200床レベルの病院が生き残るには“目玉”となる得意分野が必要と考えた前院長が、自身の専門であった整形外科の脊椎脊髄疾患の診療に力を入れ、難症例も積極的に受け入れて最新の治療を行い、脊椎脊髄外科を中心とした病院に転換していきました。中井先生は大学病院時代からその前院長の下で脊椎脊髄疾患の手術を学び、前院長が九段坂病院の整形外科部長に着任した1983年に一緒に赴任し、右腕として脊椎脊髄外科の躍進に尽力しました。中井先生が2006年に院長に就任してからは、脊椎脊髄手術を年間1,000件行うことを目標に掲げ、2009年にそれを達成することができました。

これを機に、老朽化した病院の移転新築に向けて動きだしたのですが、都心の一等地という事情もあり何度も頓挫しかけたそうです。しかし、中井先生は各方面の関係者と話し合いを重ね、現在の場所に移転が決まりました。

「当時の区長が区の高齢者を24時間365日支援できる福祉の拠点をつくりたいという構想を持っており、それならば介護と医療を一体化させた施設を合築しようという話になりました。千代田区役所の移転跡地に区が運営する介護・福祉施設を併設した新病院を建設するということで合意に至ったのです」。2015年に再スタートを切った新病院には地域の高齢者を支える高齢者サポートセンターが併設されました。これにより、同院は従来の脊椎脊髄疾患に特化した医療に加え、介護・福祉の拠点として地域に寄り添う役割も担うことになりました。



■回復期リハビリテーションは脊椎脊髄疾患の術後および脳血管障害の患者さんが多数を占め、近隣の高度急性期病院からも患者さんを受け入れています。



■病院を新築した時に医療機器を最新の機種に入れ替えたそうです。「手術中に移動させながら撮影できる可動式術中CTを導入し、MRIは3テスラを2台購入しました。レントゲンも全身を1枚のX線写真にできる装置を使用しています」と中井先生は話します。

“高度な専門医療”と“地域に寄り添う医療”の両輪で

同院の柱を担う整形外科は10名の医師が在籍し、そのうち7名が脊椎脊髄の専門医です。年間1,000件以上行っている脊椎脊髄手術の大半が3時間前後を要する難易度の高い手術で、この分野では質・量共に全国トップレベルの実績を誇っています。同科では術後のケアにも力を入れ、手術した患者さんとは一生付き合う覚悟で臨んでいると言います。「一生お付き合いするというのは、一生責任を持つということです。脊椎脊髄手術は術後1～2年の経過が良好でもその後に症状が出てくる場合があり、最低10年は経過を見る必要があります」。地道な努力の積み重ねにより、地域の人たちや近隣の医療機関の信頼を得て、今では全国から脊椎脊髄疾患の患者さんが集まる病院となっています。患者さんと長くつながるために、年賀状をくれた人には必ず返事を書くという中井先生。最も多い時は700枚書いたこともあったそうです。

その他の診療科の体制の強化にも注力し、鼠径ヘルニアの内視鏡手術を得意とする外科医や、腹腔鏡手術・子宮鏡手術のエキスパートである婦人科医、さらには脳卒中に対する磁気刺激療法等の先進的な治療を積極的に行うリハビリテーション科医等、特定の医師を目標として来院する患者さんが最近増えています。そうした同院のこれからについて中井先生は、「高潔な志を持ち、洗練された技術で愛情を込めて医療を行う」という考え方の下、区民に寄り添う地域医療に力を注ぐとともに、脊椎脊髄疾患を中心に最高水準の診断治療をめざしてまいります」と話します。



■健康医学センターでは、最新の画像診断機器とコンピューターを利用した総合健診システムで、人間ドックを実施しています。

(2019年9月取材)